

**特定原子力施設監視・評価検討会（第107回）**

**参考4**

過去のコメントへの対応状況

ハッチング・・・回答済、下線・・・追加・変更

ハッチング・・・2023年度上期に回答を求めるもの

ハッチング・・・2023年度下期に回答を求めるもの

ハッチング・・・東京電力が2023年度下期までの回答が困難としているもの

1. 液状の放射性物質に関するコメントへの対応状況

| 分類                     | コメント内容   | 事業者の回答                |
|------------------------|--|-----------------------|
| 建屋滞留水の処理               | 建屋内スラッジへの対応について、検討すること。（第78回）  | 第86、 <u>106回</u> にて回答 |
|                        | 3号機サプレッションチェンバの水位低下について、ステップ1からステップ2に移行していくまでの具体的な計画について説明すること（第84回）                         | 別途面談にて回答（継続）          |
|                        | 1号機サプレッションチェンバの水位低下時期について具体的な計画を示すこと。（第89回）  | 第90回にて回答（継続）          |
| 1/2号排気筒ドレンサンプルピット内の汚染水 | 排気筒ドレンサンプルピット内部への汚染の供給源を今後特定し説明すること。（第81、82回）  | 第82、91、93回にて回答（継続）    |
| タンク内未処理水の処理            | H2エリアの濃縮廃液（炭酸塩スラリー主体）について、ALPSスラリー同様に保管期間中に底部に沈降している可能性を考慮した上で、当該濃縮廃液の脱水処理の実現性を説明すること（第102回） | 第104回にて回答（継続）         |

2. 使用済燃料に関するコメントへの対応状況

| 分類 | コメント内容 | 事業者の回答 |
|----|--------|--------|
|----|--------|--------|

3. 固形状の放射性物質に関するコメントへの対応状況

| 分類       | コメント内容  | 事業者の回答            |
|----------|---|-------------------|
| 廃棄物の保管管理 | 廃棄物毎の分析計画策定においては、それぞれの発生量（大枠）を早急に示すとともに、いつまでに一時保管を終了させ、より安定な状態での保管を目指すのかを、具体的な事例をもとに示すこと。（第102回）                            | 第105回にて回答（継続）     |
|          | 現行の固体廃棄物の保管管理計画に入っていないものについて、全体像を明らかにするとともに、今後、その保管・管理方法の検討を進めること。また特定の施設を例にとって分析計画も含めた保管・管理の具体的な検討を始めること（第99回、第100回、第105回） | 第100、105回にて回答（継続） |

| 分類              | コメント内容   | 事業者の回答                                |
|-----------------|--|---------------------------------------|
| 分析計画の策定         | 分析計画の策定に当たっては、廃棄物の適切な保管管理のあり方を並行して検討した上で、長期的な視点から全体を見通せるものを示すとともにマネジメントの体制やマイルストーン（ホールドポイント、チェックポイントを含む）も含めて示すこと。（第 102、104 回）   | 未回答                                   |
|                 | 分析ニーズについて、早期に対応する必要がある廃棄物と燃料デブリを分けて、特定の施設に着目して具体的な分析計画を策定すること。また第三者機関による確認も分析組織を検討する際に含めること。（第 104 回）  | 未回答                                   |
| 燃料デブリ取り出し       | デブリ取出し、構内輸送、保管までの計画の全体像を示すこと。（第 85 回）  | 未回答                                   |
| ALPS スラリーの安定化処理 | スラリー安定化設備に係る閉じ込め等の安全設計について、根拠を示した上で考え方を説明するとともに、提出された実施計画変更認可申請において不足している内容については、速やかに補正を提出すること。（第 88 回）  | 第 91, 92 回にて回答、2021 年 4 月に補正申請を受理（継続） |
|                 | スラリー移し替え作業から得られた情報を整理・検討した上で、①スラリーの抜き出しの実現性（下部スラリーが抜き出せない場合の洗浄による抜き出しの実現性を含む）、②上澄み水と下部スラリーに分離している場合のフィルタープレス機による脱水の実現性について説明すること。また、コールドのモックアップ試験を含めて具体的な時期（いつ何をするか、いつ資料が提出できるのかなど）を明確に説明すること。その際、試験の試料がスラリーの実性状を適切に模擬できていることを示すこと。（第 102 回） | 第 103 回にて回答（継続）                       |
|                 | <b>2023 年 9 月までに行うとしている脱水の成立性</b> の見極めにおいて、 <b>設計条件、耐震クラスの設定、閉じ込め機能等について、1F 技術会合で議論するために必要な情報を早急に用意すること。</b> また運転開始までに必要な事項を含んだ全体工程を示すとともに、ホールドポイントを示すとともに、建屋内での配置等も早期に確認すること。（第 103、104、 <b>106</b> 回）                                      | 第 104、 <b>106</b> 回にて回答（継続）           |
|                 | 現在の HIC 増設分だけで容量をカバーできるとは考えがたく、上記全体工程を示す際には、HIC 増設の判断もしくは判断をすべき時期についても示すこと（第 103 回）  | <b>第 106 回にて回答</b>                    |

| 分類            | コメント内容  | 事業者の回答                         |
|---------------|---|--------------------------------|
|               | 二重扉等通常のグローブボックスの設計とは異なるどころ、グローブボックスの設計思想を理解した上で設計を行うこと（第 103 回）   | 未回答                            |
| HIC 内スラリーの移替え | HIC の照射線量や寿命について、2018 年以降のスラリーの状態変化、HIC 移替え後の残存スラリーの線量値から求められる線源強度や今後 HIC 移替え後の内面観察等を考慮して評価を行うこと。（第 88、96 回）  | 第 89、91、100 回にて回答（継続）          |
|               | 移替え後のスラリー残渣について、抜き取り方法を含めその取扱いを検討すること。（第 94、96、100 回）   | 未回答                            |
|               | スラリー安定化処理設備が稼働した後も継続的に使用するボックスカルバートについては、HIC に内包されるインベントリや HIC の保管本数等を踏まえ、より堅牢な保管方法にするべく、時期を定めて、Ss900 に対する影響を確認するとともに、必要に応じて、補強策を含めた耐震性を向上した保管方法を検討すること。（第 102 回） | 第 103、104 回にて一部回答（継続）          |
|               | <u>HIC の保管容量ひっ迫リスクを考慮し、HIC の一時的でない保管場所の検討に対する考えを示すこと。（第 106 回）</u>  | 未回答                            |
| ゼオライト土嚢等の処理   | ゼオライト取り出し時の遮へい設計、閉じ込め設計などの安全設計について示すとともに、設計諸元の設定など設計から製作などのプロセスにおいて重要な事項を決めるタイミングを整理して全体スケジュールとして示すこと。（第 98、99 回）   | 第 99、103、 <u>106</u> 回にて回答（継続） |
|               | 回収機器の信頼性向上、不調時の代替機確保、実証実験により明らかとなる課題の解決などの実現方策を具体化すること。（第 98 回）   | 第 103、 <u>106</u> 回にて回答（継続）    |
|               | 核燃料施設等の閉じ込め機能に係る基準要求のうち出来ないもの及びその理由を示すとともに、設備設計に際しては、どのような不具合が発生しうるのか、不具合が発生した場合にどう対応するのかについても網羅的に評価すること。（第 99 回）   | 第 103、 <u>106</u> 回にて回答（継続）    |
|               | 脱水等の運用方法や実現性、保管年数、再取り出し等を十分に考慮した上で、保管容器の具体的な設計を検討すること。（第 99 回）  | 第 103、 <u>106</u> 回にて回答（継続）    |
|               | 実施計画申請の際には、核燃料施設等に対する規制基準に対して整理して説明すること、また、要素試験やモック   | <u>第 106 回にて回答（継続）</u>         |

| 分類                       | コメント内容   | 事業者の回答           |
|--------------------------|--|------------------|
|                          | クアッパのスケジュールと申請内容との関係、PMB と HTI で使用される設備の特性、搬出等運用面を含めた作業工程を示すこと (第 103 回)                 |                  |
|                          | Cs-137 以外の核種についても、分析結果に応じて閉じ込め機能等における考慮を示すこと (第 103 回)                                   | 第 106 回にて回答      |
|                          | ストロンチウムが含まれる場合遮蔽設計に制動放射の影響を考慮すること、また約 100 基発生するとしている保管容器の保管施設についても適切な遮蔽設計を行うこと (第 103 回) | 第 106 回にて回答 (継続) |
| 1 号機原子炉格納容器内部調査の状況       | 現状の格納容器内部の水素リスクや設備の酸化防止効果等を検証した上で、格納容器の負圧管理への移行の可能性について検討すること。(第 100、106 回)              | 第 105 回にて回答 (継続) |
|                          | 今後の R O V 調査におけるペDESTAL の支持機能に対する追加調査の可能性について検討すること。(第 100 回)                            | 未回答              |
|                          | R P V 傾斜等による PCV ペネトレーションなどの弱部への影響程度を評価すること。(第 100 回)                                    | 未回答              |
| 1 号機 RCW の水素滞留事象等を踏まえた対応 | 高濃度の水が溜まっている箇所の特定を進めるとともに、本件は先行例として、作業安全や分析、水の取扱いについて検討し示すこと。(第 106 回)                   | 未回答              |

#### 4. 外部事象等への対応に関するコメントへの対応状況

| 分類      | コメント内容  | 事業者の回答                       |
|---------|---|------------------------------|
| 地下水流入対策 | 建屋の水位を低下させたときに地下水の建屋流入量の変化を確認し、貫通部の位置など流入量抑制のためのデータを蓄積すること。(第 70 回、第 79 回)                      | 第 74, 84, 92, 105 回にて回答 (継続) |
|         | 凍土壁に代わる構造壁の設置や導入等、遮水壁の取扱を含め建屋の根本的な止水対策について、いつ、どのように作成するのか全体の工程を示すこと。(第 78, 90, 99 回)            | 第 105 回にて回答 (継続)             |
|         | 建屋貫通部・建屋間ギャップなどの止水措置について、スケジュールを含め全体の計画を示すこと。また、2 号機タービン建屋や廃棄物処理建屋などの止水措置も並行して検討を進めること。(第 99 回) | 第 105 回にて回答 (継続)             |

| 分類 | コメント内容   | 事業者の回答        |
|----|--|---------------|
|    | 3号機の排気筒下のレッドゾーン周辺の雨水対策（3号機屋根の雨水排水対策）として、瓦礫の撤去・フェーシングの実施等について早期に検討を進めること。（第99回） | 第105回にて回答（継続） |
|    | 遮水壁のプライン配管等の設備について補強等も含めて設計として改良点がないか検討すること。（第99回）                             | 第105回にて回答（継続） |

#### 5. 廃炉を進める上で重要なものに対する対応状況

| 分類          | コメント内容                              | 事業者の回答 |
|-------------|-------------------------------------|--------|
| 高線量SGTS配管撤去 | 配管内側で採取したスミヤ試料の核種分析を早期に行うこと。（第100回） | 未回答    |

#### 6. その他

| 分類                    | コメント内容   | 事業者の回答             |
|-----------------------|--|--------------------|
| LCO要件の見直し             | 2020年11月12日に停止したPCVガス管理システムについて、停止することにより臨界監視機能、安全機能などが失われることの安全上の位置づけについて、窒素封入など関連する機能とともにLCO要件の見直しの中で検討すること。（第85回）   | 本件は規制委員会で方針を検討後扱う。 |
| 設備の重要度分類              | 1Fとしてのリスクに応じた重要度分類を再整理する必要がある。設備の設計・検査を考える上で、全体の重要度を定めて方針を示すこと。（第101回）   | 上記検討に併せて回答予定       |
| 令和4年3月16日の福島県沖地震に係る対応 | 設備の健全性及び建屋の劣化状況等を評価するとともに、解放基盤表面での地震動や地盤応答の増幅特性などを分析・評価し、現在設計で用いている地震動・地盤モデル等の妥当性を検証すること。また、施設・設備の健全性評価に当たっては、全体工程を示した上で、昨年2月の地震との特性の違い（卓越する周期や方向などの違い）やはざとり波の評価結果を考慮して実施すること。（第99、100回） | 第100、101回にて回答（継続）  |
|                       | はざとり波が一部周期帯で1/2Ssを超えていることから、既設設備については優先順位を考慮した上で、その健全性を早期に確認すること。また、現在審査中のB+設備については、本影響の評価を行うなど、耐震設計において考慮すること。（第100、101回）   | 第101回にて回答（継続）      |
| 3号機RHR配管内の水素ガス滞       | 他系統や他号機を含めて、水素ガスが滞留する可能性について調査・検討し、必要な対策を講じること。（第97  | 第104回にて回答（継続）      |

| 分類                                | コメント内容   | 事業者の回答             |
|-----------------------------------|--|--------------------|
| 留に係る対応                            | 回)<br><u>(リスクマップ (2023年3月版) において、今後の継続的な実施案件としているため次回会合にて削除)</u>       |                    |
| ALPS 処理水に係る実施計画変更認可申請の審査状況        | 海域モニタリングにおいて通常と異なる状況等と判断される考えについて、検討が進んだ際に分かりやすい形で説明すること (第 105 回)     | 未回答                |
| ALPS 処理水の海域モニタリングにおける魚の OBT 分析の検証 | 本分析については QMS の中に組み入れること。(第 104 回)                                      | <u>第 106 回にて回答</u> |
|                                   | 測定数値のばらつきが大きいので、測定の不確かさを示すこと。(第 104 回)                                 | <u>第 106 回にて回答</u> |
|                                   | 新規の分析技術を取り入れる場合には、従来から実績のある分析機関と調整・比較を行うこと、また分析体制の強化にも反映すること。(第 104 回) | <u>第 106 回にて回答</u> |